

## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日	
定時株主総会	毎年6月	
基準日	定時株主総会の議決権	3月31日
	期末配当	3月31日
	中間配当	9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社	
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社	
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部	
(電話照会先)	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)	
公告方法	電子公告により、当社ホームページ ( <a href="http://www.advanced-media.co.jp/ir/">http://www.advanced-media.co.jp/ir/</a> ) に掲載いたします。なお、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。	

## 第19期 年次報告書

2015.04.01～2016.03.31



## 2016 AMI Report



## 会社概要 (2016年3月31日現在)

会社名	株式会社アドバンスト・メディア
設立	1997年12月
資本金	49億7,309万円
取引銀行	三井住友銀行、みずほ銀行、他
所在地	本社 〒170-8630 東京都豊島区東池袋3-1-4 サンシャインシティ文化会館6階 Tel:03-5958-1031 (代表) Fax:03-5958-1032
連結子会社	AMIVOICE THAI CO., LTD. (タイ王国) 株式会社グラモ Glamo America, Inc. (米国) 株式会社速記センターつくば
関連会社 業務提携先	True Voice Company Limited (タイ王国) Multimodal Technologies, LLC. (米国)

## Vision

### Human Communication Integrationの実現

アドバンスト・メディアは、  
「機械」との自然なコミュニケーションを実現し、  
豊かな未来を創造します。

株式会社アドバンスト・メディア

証券コード：3773



# 連結業績概要

## 売上高

●売上に関しましては、CTI事業部、医療事業部、クラウド事業部などの子会社を含めてほぼ全ての事業において増収した一方で、連結子会社の株式会社グラモの事業は減収したものの、音声事業の「稼ぐ力」が着実に向上いたしました。

これらの結果、当連結会計年度の売上高は2,291百万円（前期は売上高1,822百万円）となりました。

## 損益

●営業利益については、売上を伸ばす組織体制を構築しながらも、人員の増員配置計画の見直しや効率的に研究開発活動を行ったことなどにより、販管費を前期水準並みにコントロールすることができ、営業損失は当初計画より赤字幅が縮小いたしました。

●経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、為替相場の大幅な変動により、主に当社が保有する米ドル建て預金の評価において為替差損が発生したことなどにより、当初計画を大幅に下回りました。さらに、第2四半期までに当社が保有する満期償還前の外国債券の全部を売却し、特別利益を計上するなど収益を押し上げることとなりましたが、個別財務諸表上の子会社（株式会社グラモ）株式の簿価を減損処理したことに伴い、のれんの追加償却を計上し、親会社株主に帰属する当期純損失は前期並みとなりました。

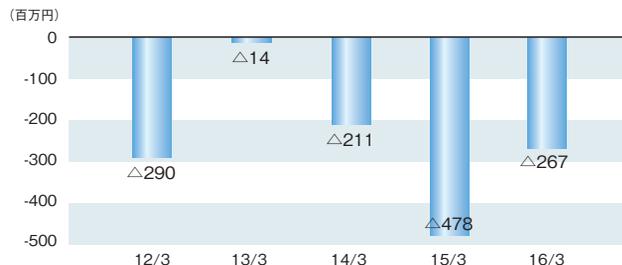
これらの結果、営業損失267百万円（前期は営業損失478百万円）、経常損失297百万円（前期は経常損失169百万円）、親会社株主に帰属する当期純損失は175百万円（前期は親会社株主に帰属する当期純損失176百万円）となりました。

## 財務ハイライト

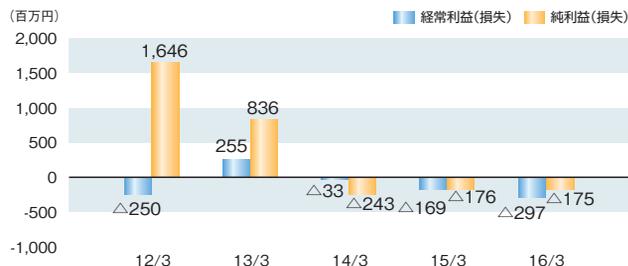
### ●連結売上高



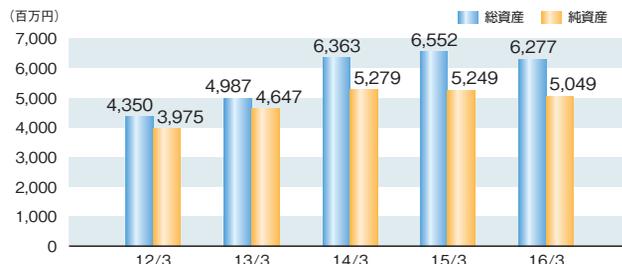
### ●連結営業利益(損失)



### ●連結経常利益(損失)・親会社株主に帰属する当期純利益(損失)



### ●連結総資産・純資産



# 株主・投資家の皆様へ

株主の皆様には平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。ここに、当社第19期年次報告書をお届けいたします。当社事業のご理解の一助となれば幸いです。

当社グループは事業の拡大方針として、これまで築いた事業基盤の上で2つの成長エンジンの駆動を掲げ活動してまいりました。

- ① 既存コアドメイン事業をさらに成長させる（第1の成長エンジン）
- ② 新規ビジネス・海外事業・M&Aを付加および活性化させ、成長の付加ばかりでなく、①の成長をも促進させる（第2の成長エンジン）

そのような中、売上ににつきましては、上記活動を『稼ぐ力の向上』に繋げ、ほぼ全事業において増収を達成することができました。また、営業損益につきましても、売上を伸ばす組織体制構築と組織運営を行いながらも、コスト管理を徹底したことなどにより当初計画より赤字幅を縮小させ、第20期の営業黒字化への布石を打つことができました。

- 『稼ぐ力の向上』は以下によってもたらされました。
- (1) 音声認識に対する認知と期待感の高まりという外部環境の変化
  - (2) **AmiVoice®**およびその周辺技術の技術革新（深層学習機能の付与などにより自然発話認識性能の格段の向上を行いました）
  - (3) 顧客にとって魅力的な音声認識製品およびサービスの絶え間ない提案

第20期とそれ以降では、**AmiVoice®**およびその周辺技術の革新は言うまでもなく、自然言語処理および対話技術や深層学習技術の強化、多言語音声認識の開発および強化などや既存コアドメイン事業において、全方位で魅力的な顧客体験、即ち、UI(ユーザーインターフェース)およびUX(ユーザーエクスペリエンス)を具備する製品およびサービスの導入促進と市場展開を図るとともに、IoTやコネクティッドホーム向けサービス開発(デバイス開発含む)などに注力してまいります。顧客の音声認識に対する認知と期待が益々高まり、購入や利用を大きく促進させ、飛躍的かつ継続的な売上増大を実現することができると考えております。

市場を創ることで事業価値を創り、それにより企業価値を高めるよう、当社グループ一丸となり事業を推進してまいります。株主の皆様におかれましても、変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2016年6月  
代表取締役会長兼社長  
鈴木 清幸

# 事業の進捗と今後の取り組み

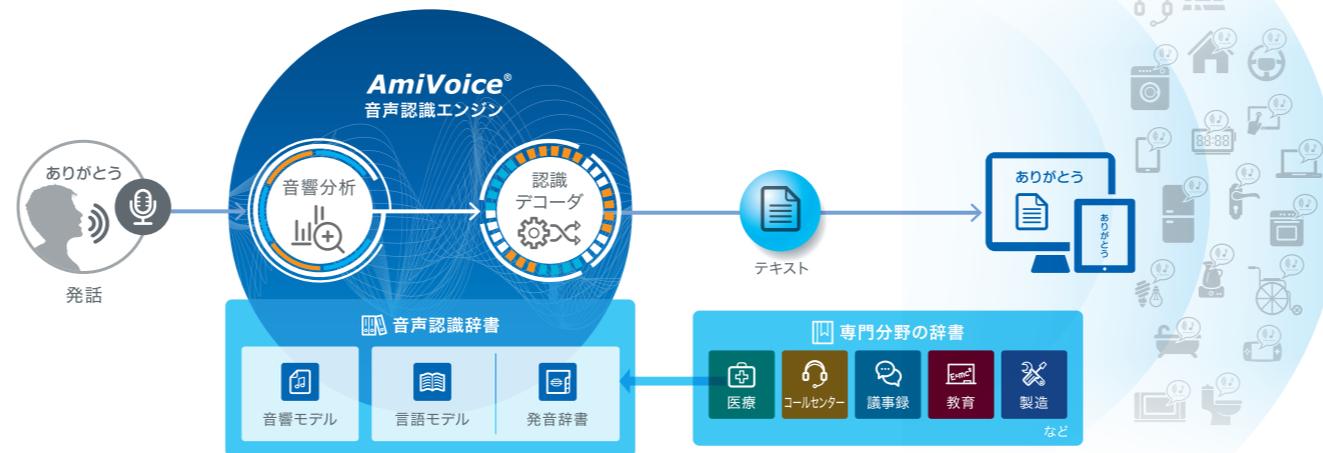
## 音声認識エンジンの進化

アドバンスド・メディアのコア技術である**AmiVoice®**音声認識エンジンは、おける飛躍的向上と自己進化（第2の波）をとげました。

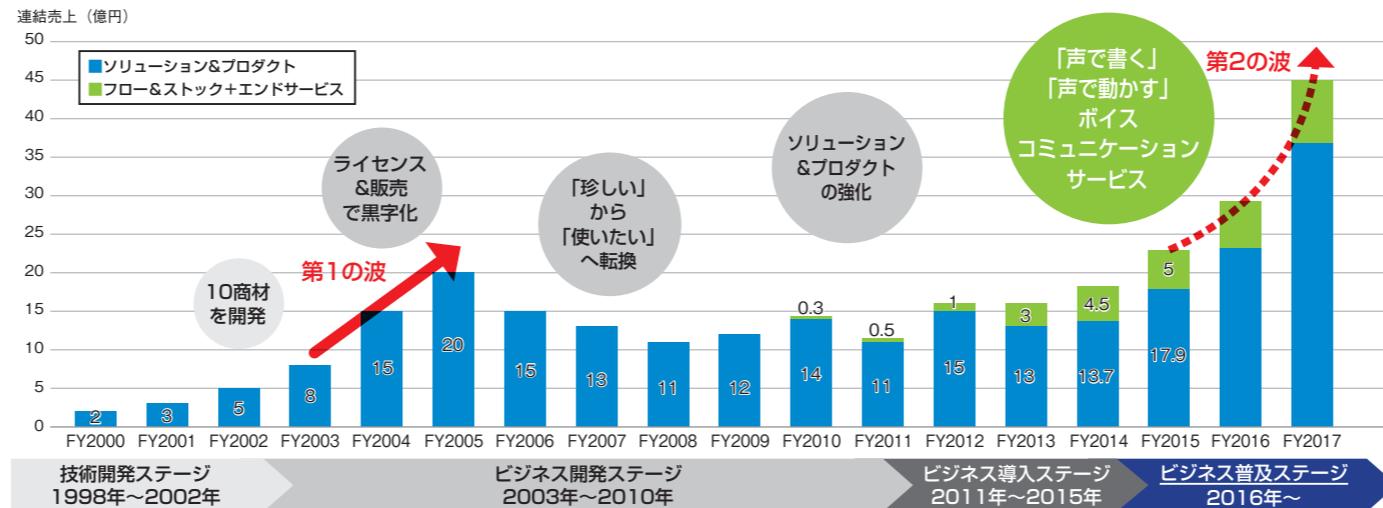
※ディープラーニングとは：機械が人間の脳の構造をソフトウェア的に模倣し、データの特徴をより深いレベルで学習し、非常に高い精度

人工知能技術「ディープラーニング（深層学習）」の導入により、認識精度面に

の特徴を学習して認識や分類を行う「機械学習」の手法で特徴を認識できます。



## 売上高のこれまでとこれから

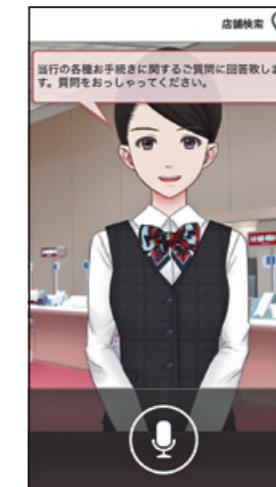


ボイスコミュニケーション・サービスにより「飛躍的な売上増大」へ踏み出す

## TOPICS

**SEC事業** 人工知能技術を活用した、次世代の音声対話ソリューションの市場導入  
※SEC：スマート・エクスペリエンス・クリエイターズ

### 三菱東京UFJ銀行のAI音声対話アプリ「バーチャルアシスタント」に採用



- 音声認識技術・意図解釈技術を活用し、お客さまからの音声によるお問合せに対応
- 銀行取引に関する質問を、バーチャルアシスタント「マイが」、質問の意図を解釈し、適切な回答をご案内。回答できない質問は、コールセンターのオペレーターに接続

**医療事業** 調剤薬局向けおよび放射線向け製品の販売が好調に推移

### 音声入力システム **AmiVoice® Ex7**の導入が進む



- 日本チェーンドラッグストア協会が「不適切な薬歴管理の再発防止に関する宣言」において音声入力システム導入を推奨。そのような背景もあり、調剤向けの音声入力の導入が加速。大型店への導入拡大
- パートナーによる販売強化。放射線向け製品も堅調に推移